

2025年1月

株式会社 山陰合同銀行

地域振興部 産業調査グループ

山陰経済

基調判断

(2024/11 月中心分)



海

外景気の減速の影響などから、生産活動に弱い動きが残るものの、投資活動は全体としては底堅く推移し、個人消費の一部が上向くなど、総じて持ち直しの動きがみられる。

最近の国内経済については、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、11月の公共工事請負金額は2カ月連続で前年を下回り、底堅い動きとなっている（2024年4月～11月累計の対前年比は7.9%増、全国5.6%増）。

設備投資は、2023年度は、全産業では前年度比46.7%増となっており、2024年度は全産業で同7.2%減と前年度を下回る計画となっているものの、投資額は高めの水準となっている。

住宅建設は、10月の新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を下回り、横ばい圏の動きとなっている。

個人消費は、大型店売上高（11月）は2カ月ぶりに前年を上回り、乗用車新車登録台数（11月）は3カ月ぶりに前年を下回り、家電量販店販売額（10月）は4カ月連続で前年を下回った。一部に上向きの動きがみられる。

生産は、10月の鉱工業生産指数（季調済指数）が、鳥取県は3カ月ぶりに、島根県は2カ月ぶりに、それぞれ前月を下回った。部品や原材料の供給不足や価格上昇などによる影響は和らいでいるものの、弱い動きがみられる。

雇用情勢は、10月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差0.03ポイント上昇の1.28倍、島根県では前月差0.01ポイント低下の1.43倍となった。求人倍率は1倍を上回っているものの、弱い動きとなっている（全国は1.25倍）。

企業の業況判断は、足元、全産業で改善となった（前回14→今回15）。先行きについては、全産業で悪化の見通しとなっている。

このように、海外景気の減速の影響などから、生産活動に弱い動きが残るものの、投資活動は全体としては底堅く推移し、個人消費の一部が上向くなど、総じて持ち直しの動きがみられる。

引き続き物価上昇の影響はあるものの、投資活動は全体としては底堅い動きが続き、所得環境の改善により、個人消費は底堅さを増しており、総じて緩やかな持ち直し基調に向かうものと予想される。

お天気マークの5分類

明るい



一部に明るさ



停滞



不振

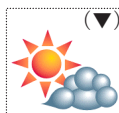


厳しい



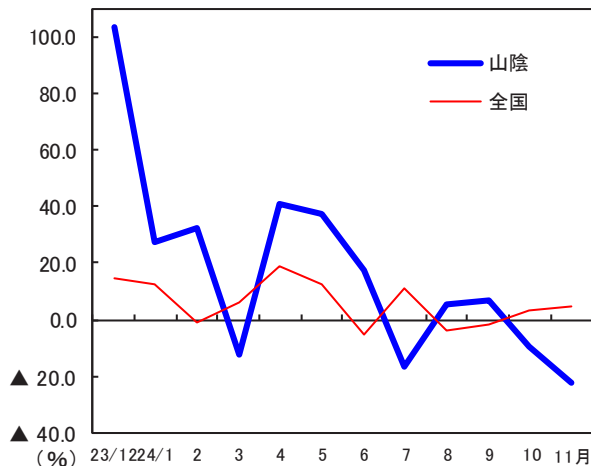
注：マークの右肩の△は先月より上方修正、▼は同じく下方修正を示す。（ ）は修正の一手手前の状況。

1. 公共投資



『底堅い動き』

公共工事請負額（対前年比）



■11月の山陰両県の公共工事請負状況は、件数が318件、請負額は前年比22.2%減の93億62百万円と、2カ月連続で前年を下回った。

■請負額の年度累計（2024/4-11月）は、前年比7.9%増と、前年を上回っている。

《資料出所：西日本建設業保証㈱》

2. 設備投資



『前年度は下回るが、投資額は高めの水準』

設備投資額（対前年度比）

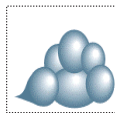
(単位：%)

	22年度実績	23年度実績	24年度実績・計画
全産業	▲ 14.7	46.7	▲ 7.2
うち中小	▲ 4.0	73.1	▲ 25.1
製造業	▲ 19.8	20.6	20.0
うち中小	7.6	19.0	▲ 2.9
非製造業	▲ 7.7	74.0	▲ 27.0
うち中小	▲ 12.2	114.9	▲ 34.6

■2024年度の設備投資額（当行企業動向調査 2024年9月調査）は、全産業で前年度比7.2%減（同製造業20.0%増、非製造業▲27.0%減）と、前年度を下回る計画となっているものの、投資額は高めの水準となっている。

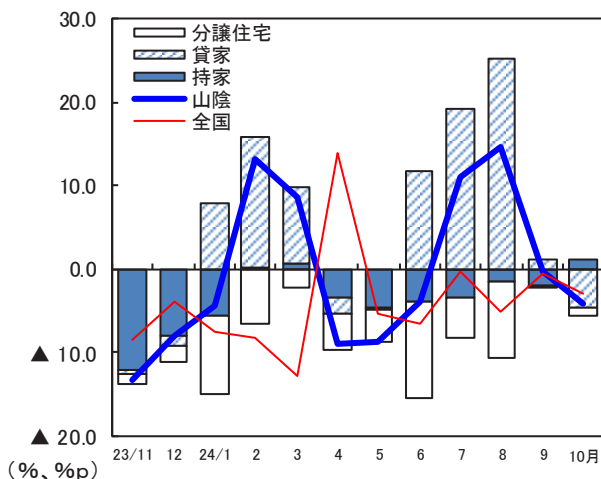
《資料出所：当行》

3. 住宅建設



『横ばい圏の動き』

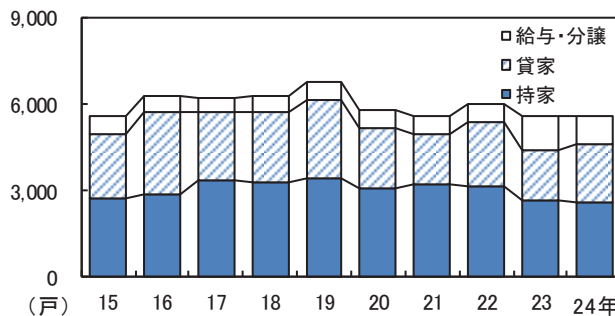
新設住宅着工戸数（対前年比、寄与度、3カ月移動平均）



※「新設住宅着工戸数」山陰両県の対前年比は、全体、利用関係別寄与度ともに3カ月移動平均で表示している（ただし全国は単月）。

また、「利用関係別戸数」は、過去10年間における年間着工戸数の推移を利用関係別に示しており、うち2024年は年率換算の推計値を掲載している。

利用関係別戸数（直近は推計値）



■10月の山陰両県の新設住宅着工戸数は前年比3.4%減の421戸と、2カ月連続で前年を下回った。また、全国は同2.9%減と6カ月連続で前年を下回った。

■利用関係別にみると、持家（前年比8.8%増）は前年を上回ったものの、貸家（同9.9%減）、分譲住宅（同22.0%減）は前年を下回った。

■2024年累計（2024/1-10月）は、全体では前年比0.6%増と、前年を上回っている（全国は同3.6%減）。また、利用関係別にみると、貸家（前年比22.6%増）が前年を上回っているものの、持家（同2.8%減）、分譲住宅（同23.7%減）は前年を下回っている。

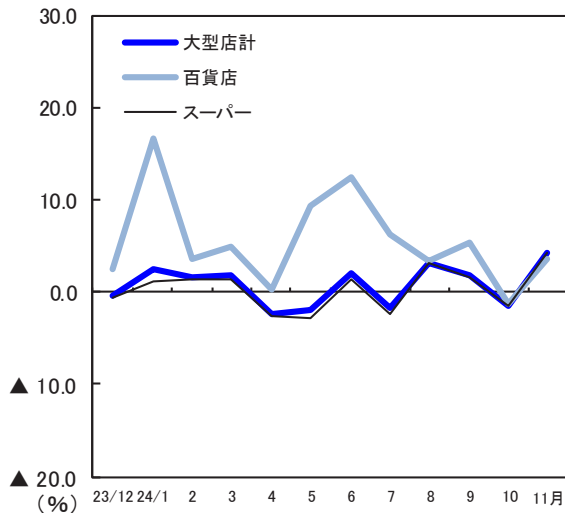
《資料出所：国土交通省》

4. 個人消費



『一部に上向きの動き』

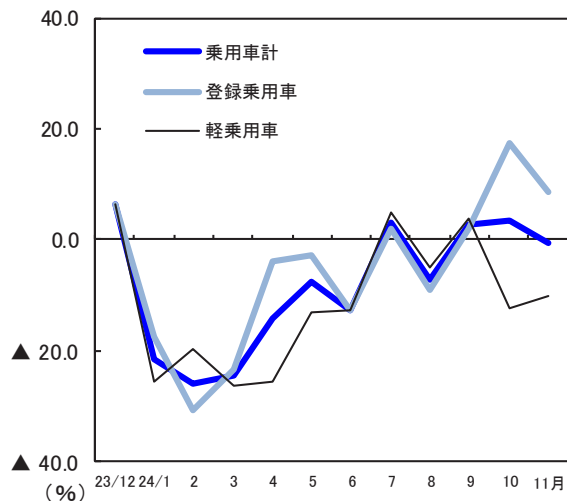
大型店売上高（対前年比）



- 11月の山陰両県大型小売店（約15社、当行調査先、速報）の売上高は、134億37百万円で前年比4.2%増と2カ月ぶりに前年を上回った。
- 2024年累計（2024/1-11月）は、前年比0.9%増と前年を上回っている。
- 百貨店（11月、速報）は、前年比3.6%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。中旬以降、気温が低下したことに伴い、秋冬物衣料が動いたことなどから、前年を上回った。
- スーパー（11月）は、前年比4.3%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。
- 先行きについては、物価上昇の影響はあるものの、賃上げなどにより、基調として持ち直していくものと予想される。

《資料出所：当行》

乗用車新車登録台数（対前年比）

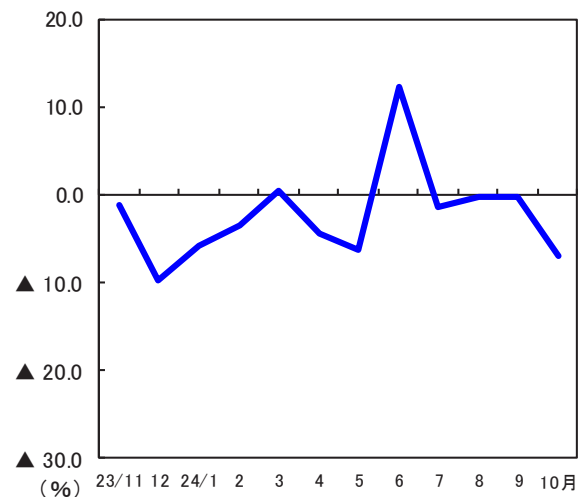


- 11月の乗用車新車登録台数は、登録乗用車（普通車、小型車）と軽乗用車合計で前年比0.5%減と、3カ月ぶりに前年を下回った（全国は同3.9%減）。
- 2024年累計（2024/1-11月）は、前年比10.5%減と、前年を下回っている。
- 登録乗用車は、普通車が前年比9.1%増と3カ月連続で前年を上回り、小型車が同7.6%増と2カ月連続で前年を上回り、全体では同8.5%増と3カ月連続で前年を上回った（全国は同1.0%減）。
- 軽自動車は、前年比10.3%減と、2カ月連続で下回った（全国は同9.4%減）。

※軽乗用車は「届出」の台数

《資料出所：中国運輸局鳥取運輸支局、同島根運輸支局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会》

家電量販店販売額（対前年比）



- 10月の家電量販店販売額は、前年比7.0%減と、4カ月連続で前年を下回った。
- 携帯電話は好調だったが、エアコンや一部の白物家電が苦戦したことなどから、前年を下回った。
- 2024年累計（2024/1-10月）は、前年比1.4%減となり、前年を下回っている。
- 先行きは、物価高の影響はあるものの、節電意識の高まりなどから、省エネ商品を中心に改善の動きが期待される。

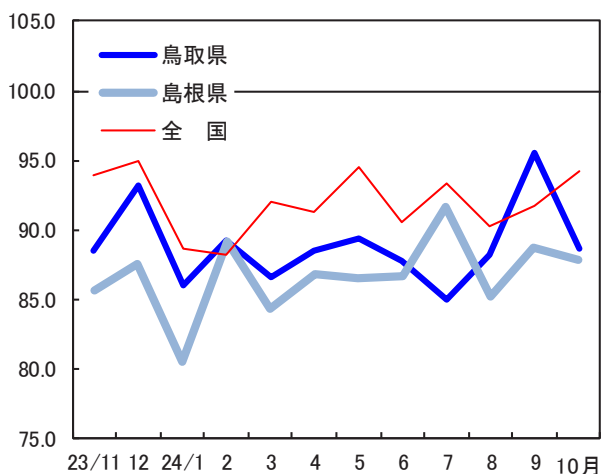
《資料出所：経済産業省》

5. 生産



『弱い動き』

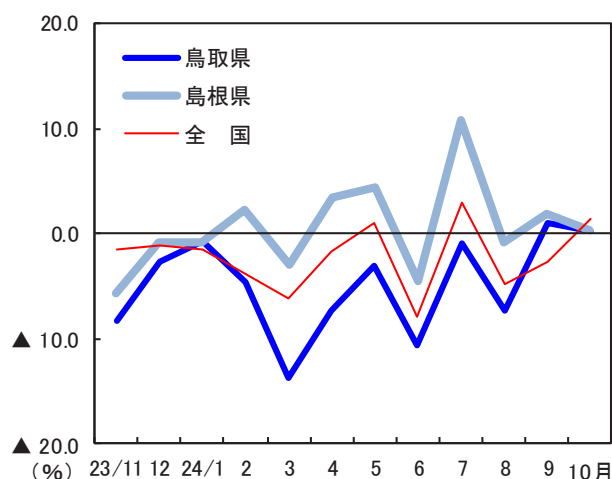
鉱工業生産指数（季調済、2015年＝100）



■ 10月の鉱工業生産指数（季調済、2015年＝100、鳥根県は速報値）をみると、鳥取県は88.6で前月比7.2%低下し、島根県※は87.8で同1.0%低下した。鳥取県は3カ月ぶりに、島根県は2カ月ぶりに、それぞれ前月を下回った（全国※は94.2で同2.8%上昇）。

※鳥根県と全国は2020年基準値を当行において2015年基準値に引き直した参考値。

鉱工業生産指数の対前年比（原指数）



■ 鉱工業生産指数の前年比（原指数）をみると、鳥取県は0.3%上昇し、島根県も0.3%上昇した。鳥取県、島根県ともに2カ月連続で前年を上回った（全国は1.4%上昇）。

《資料出所：鳥取・島根両県統計担当課、経済産業省》

《個別動向》

■鉄鋼

特殊鋼は電子材料を中心に需要が停滞傾向にあり、生産規模を受注見合いの水準にとどめ、在庫の適正化を図っている。工作機械用鋳物は、新規受注の確保に努めており、一定の受注残を抱える状況を維持しながら安定的な操業を続けている。

■一般機械

農業機械は、国内市場向けを中心に需要減退が続いており、市場動向に合わせて生産水準を機動的に調整している。その他の機械についても、仕向け先業種や用途による違いはあるものの、半導体関連の生産用機械を中心に弱い動きがみられる。

■電子部品・デバイス

高度な安全装備を搭載した自動車の増加や高性能な情報通信機器の普及などを背景に引き合いはあるものの、モジュールを構成する製品の需給状況が一様ではないことなどから、総じて不安定な動きが続いている。

■輸送機械

堅調な完成車需要をうけて自動車部品の引き合いは安定しているものの、完成車メーカーの調達姿勢の変化や完成車生産の一時的な停止に合わせて、生産量を抑えるなどの対応をとっている。

■窯業・土石

生コンは、道路関連を中心とした継続案件が出荷を下支えしている。石州瓦は市場環境の変化に対応し切れず減少傾向にある。

■紙・パルプ

包装資材向けは包装の簡素化や贈答需要の低迷などを背景に弱含みで推移している。印刷・情報媒体向けについても、出版物の減少や電子メディアの増加などにより減少傾向にある。

■繊維

繊維製品は需要の季節変動による繁閑がみられるものの、国内需要の伸び悩みから、総じて低調に推移している。

■食品

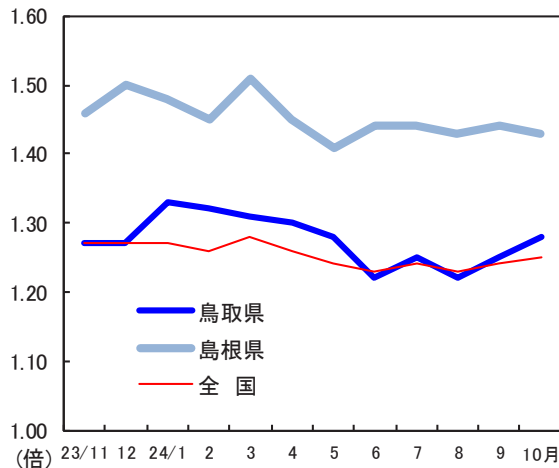
原材料価格は高止まりしており、一部商品への価格転嫁の動きがみられる。観光土産菓子では大都市圏向けを中心に、引き続き好調な動きとなっている。

■木材・木製品

戸建て住宅の需要減退を背景に構造材の出荷が伸び悩むなかで、原木の引き合いも弱い状況にあり、全体として需給調整が続いている。

『弱い動き』

有効求人倍率（季節調整値）



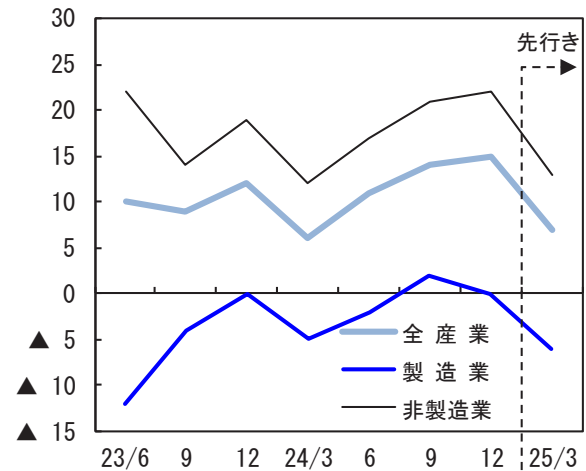
- 10月の有効求人倍率（季調値）をみると、鳥取県は前月差0.03ポイント上昇の1.28倍、島根県は前月差0.01ポイント低下の1.43倍となった。求人倍率は1倍を上回っているものの、弱い動きとなっている。
- 全国は前月差0.01ポイント上昇の1.25倍となった。

《資料出所：鳥取・島根労働局職業安定課、厚生労働省》

A blue pyramid of five spheres, with a shadow cast to the left. The spheres are arranged in a triangular base of three spheres with one sphere on top. The entire scene is enclosed in a rectangular frame with a dashed line on the left and a solid line on the right.

『足元は改善、先行きは悪化見通し』

業況判断 D. I. (日銀短観 12 月)



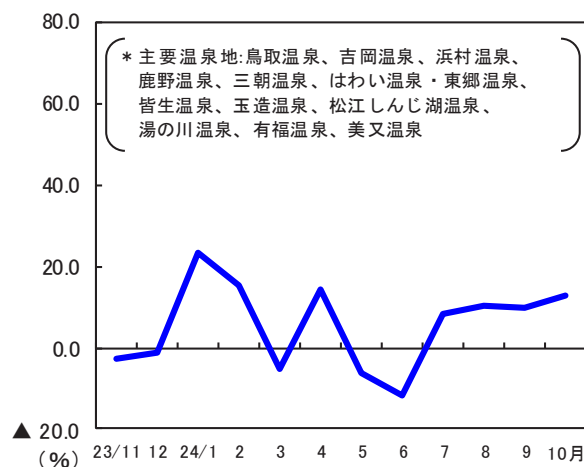
- 日銀短観（2024年12月調査）によると、足元の業況判断は、製造業は悪化、非製造業は改善し、全産業では改善となった（前回14→今回15）。
- 先行きについては、製造業、非製造業ともに悪化を見込んでおり、全産業でも悪化の見通しとなっている。

《資料出所：日本銀行松江支店》

8. 主要溫泉地宿泊人員

『4 カ月連続で前年を上回る』

山陰地方主要温泉地宿泊人員（対前年比）



- 10 月の主要温泉地宿泊人員は前年比 13.0%増の 153,648 人と、4 カ月連続で前年を上回った。人流回復を背景に前年を上回った。
 - 県別にみると、鳥取県は前年比 12.6%増、島根県は同 13.5%増と、鳥取県、島根県ともに 4 カ月連続で前年を上回った。
 - 2024 年累計 (2024/1-10 月) は、前年比 5.7%増と前年を上回っている。
- 《資料出所：当行》

《資料出所：当行》

9. 企業倒産

『件数が3カ月ぶりに前年を下回る』

倒産件数、負債額（単位：件、百万円、％）

		24/11月		24/1～11月	
		実数	前年比	実数	前年比
製造業	件数	1	0.0	7	▲ 41.7
	負債額	20	▲ 95.4	459	▲ 71.9
建設業	件数	0	—	14	40.0
	負債額	0	—	1,720	140.2
卸売業	件数	0	▲ 100.0	6	▲ 45.5
	負債額	0	▲ 100.0	358	▲ 84.4
小売業	件数	2	0.0	13	8.3
	負債額	143	▲ 46.8	1,068	▲ 11.7
その他 業種	件数	3	0.0	42	61.5
	負債額	1,096	564.2	5,419	▲ 17.0
合計	件数	6	▲ 14.3	82	15.5
	負債額	1,259	38.8	9,024	▲ 27.1

- 11 月の山陰両県の企業倒産（負債額 1 千万円以上）は、件数が前年比 14.3%減の 6 件と、3 カ月ぶりに前年を下回った。負債額は同 38.8%増の 12 億 59 百万円と、2 カ月連続して前年を上回った。
- 倒産件数の年累計（2024/1-11 月）は、前年比 15.5%増と、前年を上回った。また、業種別では、建設業・小売業などで前年を上回っている。

《資料出所：(株)東京商工リサーチ》

マンスリー山陰経済

発行：株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

〒690-0062

島根県松江市魚町 10

TEL:0852-55-1000 FAX:0852-27-8249

無断転載を禁ずる